

2020 年度

事 業 計 画 書

収 支 予 算 書

2020 年 3 月 10 日

公益財団法人水産無脊椎動物研究所

2020 年度 事業計画書

基本方針

当研究所の事業は、水産無脊椎動物の研究者を「助ける」事業、研究情報を収集して活用をはかる「集める」事業、そして水産無脊椎動物の情報を「広める」普及啓発事業で成り立っている。今年度もこれらの事業を通じて、水産無脊椎動物に関する研究の進展や水産資源の開発や利用推進に寄与できるよう活動していきたい。

1. 「助ける」研究助成事業

助成事業は 1988 年から始めて 32 年目を迎える。近年は遺伝子研究など、より実利的な課題や研究テーマに偏る傾向にあるが、当財団としては水産無脊椎動物分野における地道な基礎的研究への応援を中心に、助成事業を推進していくこととしている。

2020 年度の課題募集については、前年より 2 件減少し、個別研究 63 課題・育成 19 課題（合計 82 課題）の応募があった。その中から、個別研究 11 課題、育成研究 3 課題を専門委員の審査により採択した。

今後の広報活動について、引き続き地道に新たなメーリングリストの追加や学会での広報を行うとともに、引き続き、当財団 WEB サイトの改修や昨年から情報発信を進めた Twitter や Facebook での発信、当該分野の人脈ネットワークとの交流に努めながら認知を広め、同時に、当研究助成の意義を明確にしていくことで、更なる応募数の増加と助成事業の拡大を図る。高校生等、現状より若年層からの応募も期待できる応募形式の開発や広報ルートの開拓にも取り組んでいきたい。

2. 「集める」研究情報・資料の収集、交換図書、学会の聴講

(1) 引き続き軟体動物後鰓類(ウミウシ)の研究情報と画像の収集に努める。

長年、継続してきた後鰓類の研究情報と画像の収集に関しては、過去論文等に発表されたものは一旦すべて收集整理が完了した。引き続き新たに発表されたものに関して継続して収集に努めていく。

これまでに収集した後鰓類の情報の活用も模索していく。

(2) 資料・論文の収集と保管

無脊椎動物に関する図書・図鑑を増やし、発表された論文やその情報を収集・保管し、利用を図る。

関東周辺における海産無脊椎動物の出現・分布状況を調査し、情報を収集する。特に後鰓類の分布情報を文献および野外調査にて重点的に収集する。本年度はまずリスト作りと情報収集に努める。また、2019 年度よりミュージアムパーク茨城県自然博物館が実施している総合調査研究の調査員として参加しており、同博物館と共同研究を行う。この調査・研究では茨城県における海産動物の情報を収集し、特筆すべきものについては論文を発表する予定である。

(3) 学会の聴講

今年度も、日本貝類学会、日本動物学会、日本動物分類学会、日本甲殻類学会の大会を中心に参加する。また、関連したシンポジウム等があれば参加し、財団のネットワーク拡大にもつなげていく。収集した新しい研究情報は、一般の人にも広めるべきと考えられる内容は研究者に「うみうし通信」への掲載を依頼する。

3. 「広める」普及啓発事業

(1) 広報誌「うみうし通信」の発行

「うみうし通信」は当研究所（財団）の広報誌であり、広く水産無脊椎動物についての情報を掲載する。また、助成課題の研究報告の中で貴重な研究情報があれば掲載する。今年度も No. 107 から No. 110 号の 4 号を発行する。2020 年度最初の号となる 107 号では、印刷協力会社を変更し、レイアウトの刷新を行う予定である。これにより、大幅な予算削減も実現する。より親しみやすい紙面を目指し、新しい読者の確保にもつなげたい。

(2) 「うみうしくらぶ」会員の維持と発展

会員は「うみうし通信」の定期購読者である。内外のイベントなどで「うみうし通信」の広報活動を行うことにより、新規会員・読者を開拓する。近年、小学生を含む学生の入会も増えているため、若手会員が参加できるようなイベントも企画する。

(3) イベントは従来からの子供向けと「うみうしくらぶ」会員向けの実施に加え新たに、高校生以上の若手対象の「見学会」の実施を模索してみる。

① 子供を対象とした海の生物観察会

「第 14 回 親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」を今年度も昨年と同様、神奈川県観音崎自然博物館を利用し、5 月 9 日（土）に開催する。

② 磯の生物勉強会

大学の臨海研究施設で実施していた磯の生物勉強会は、国立大学施設をほぼ一巡したため、今年は 7 月 4 日（土）横須賀市自然・人文博物館の天神島臨海自然教育園（神奈川県横須賀市）にて、日帰りの勉強会「ウミウシの観察」を行う。

③ 見学会

秋を目途に高校生以上を対象とした東京大学総合研究博物館の見学会を計画する。実際に大学博物館の展示や標本を見学し、大学の先生に研究や生物についてのレクチャーをしていただく予定である。

(4) 財団WEBサイト（rimi.or.jp）の充実と交流ネットワークの拡大への取り組み

① 財団公告メディアとして、財団の情報公開は迅速かつ正確に行う。

また研究助成課題の募集と課題の決定は、ここで公表する。

- ②水産無脊椎動物の理解を助けるため、引き続き水産無脊椎動物図鑑の拡充を推進する。より特徴の分かる写真を追加し、分類群名の変更など、近年の研究情報も反映させていく。
- ③WEBサイトの一部を更新し、「質問コーナー」に代わる新しいコンテンツのオープンを目指す。このコンテンツでは閲覧者も参加可能なものを検討する。
- ④「うみうし通信」記事の公開化を検討し、より多くの一般の方に、水棲の無脊椎動物について知ってもらいきっかけづくりを推進する。
- ⑤財団周年シンポジウムや学会で広がった若手研究者との交流やSNSを活用しながら、地道に財団の存在認知や交流ハブになるよう進めていく。

(5) 生物分布情報の活用

財団でこれまでに収集している画像や、イベントの際に収集できた種の分布情報は、生物多様性情報の重要なデータとなりうる。そこで、調査・研究に活用してもらうため、海洋研究開発機構（JAMSTEC）のデータベース（ORBIS）へデータ提供を開始し、生物情報の登録を進める。

上記のように、今年度も引き続き、水産無脊椎動物に関する研究の進展に寄与できるよう「助ける」「集める」「広める」事業を着実に推進する。また、研究者・予備軍・応援団ネットワークの充実、将来にむけての財務基盤の構築という中期テーマにも取り組んでいく。

以上

2020年度収支予算書

2020年4月1日より2021年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	32,400	36,000	△ 3,600
基本財産受取配当金	11,000,000	9,500,000	1,500,000
受取年会費	434,700	500,000	△ 65,300
イベント収入	90,000	90,000	0
受取寄付金	230,000	250,000	△ 20,000
その他利息収入	0	0	0
経常収益計	11,787,100	10,376,000	1,411,100
(2) 経常費用			
① 事業費	28,860,282	28,447,300	412,982
給料手当	4,860,000	5,169,000	△ 309,000
臨時雇用賃金	950,000	0	950,000
退職給付費用	0	289,000	△ 289,000
厚生費	803,000	820,000	△ 17,000
会議費	500,000	450,000	50,000
旅費交通費	1,000,000	650,000	350,000
通信運搬費	500,000	450,000	50,000
消耗什器備品費	210,000	50,000	160,000
消耗品費	150,000	400,000	△ 250,000
印刷製本費	1,680,000	4,200,000	△ 2,520,000
賃借料	1,717,728	300,000	1,417,728
諸謝金	650,000	550,000	100,000
支払助成金	15,000,000	14,339,000	661,000
減価償却費	139,554	40,300	99,254
業務委託費	500,000	500,000	0
雑支出	200,000	240,000	△ 40,000
② 管理費	8,301,456	11,354,400	△ 3,052,944
役員報酬	4,344,000	4,344,000	0
臨時雇用賃金	0	1,050,000	△ 1,050,000
退職給付費用	0	25,000	△ 25,000
厚生費	832,000	780,000	52,000
会議費	120,000	230,000	△ 110,000
旅費交通費	150,000	200,000	△ 50,000
通信運搬費	35,000	52,000	△ 17,000
消耗什器備品費	150,000	0	150,000
消耗品費	10,000	30,000	△ 20,000
水道光熱費	95,000	100,000	△ 5,000
賃借料	1,500,000	3,000,000	△ 1,500,000
業務委託費	950,000	1,400,000	△ 450,000
租税公課	2,000	10,000	△ 8,000
減価償却費	58,456	58,400	56
雑費	55,000	75,000	△ 20,000
経常費用計	37,161,738	39,801,700	△ 2,639,962
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 25,374,638	△ 29,425,700	4,051,062
基本財産評価損等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 25,374,638	△ 29,425,700	4,051,062

収支予算書内訳表

2020年4月1日 から 2021年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公1		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	32,400	0	32,400
基本財産受取配当金	11,000,000	0	11,000,000
受取年会費	434,700	0	434,700
イベント収入	90,000	0	90,000
受取寄付金	230,000	0	230,000
その他利息収入	0	0	0
経常収益計	11,787,100	0	11,787,100
(2) 経常費用			
事業費	28,860,282		28,860,282
給料手当	4,860,000		4,860,000
臨時雇賃金	950,000		950,000
厚生費	803,000		803,000
会議費	500,000		500,000
旅費交通費	1,000,000		1,000,000
通信運搬費	500,000		500,000
消耗什器備品費	210,000		210,000
消耗品費	150,000		150,000
印刷製本費	1,680,000		1,680,000
賃借料	1,717,728		1,717,728
諸謝金	650,000		650,000
支払助成金	15,000,000		15,000,000
減価償却費	139,554		139,554
業務委託費	500,000		500,000
雑費	200,000		200,000
管理費		8,301,456	8,301,456
役員報酬		4,344,000	4,344,000
厚生費		832,000	832,000
会議費		120,000	120,000
旅費交通費		150,000	150,000
通信運搬費		35,000	35,000
消耗什器備品費		150,000	150,000
消耗品費		10,000	10,000
水道光熱費		95,000	95,000
賃借料		1,500,000	1,500,000
業務委託費		950,000	950,000
租税公課		2,000	2,000
減価償却費		58,456	58,456
雑費		55,000	55,000
経常費用計	28,860,282	8,301,456	37,161,738
基本財産受贈益			
基本財産評価損益			
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 17,073,182	△ 8,301,456	△ 25,374,638